

# 小学校における NIE の可能性

大田区立入新井第一小学校 山家 哲雄

## 1、はじめに

学習指導要領、特に国語科や社会科において新聞という記述が多く見られるようになった。これを受けて現行の教科書はもちろんだが、改訂されることになる各教科書会社において新聞を教材として取り上げることが多くなるようである。今、まさに新聞のもつ力が見直されているといえる。時代が進み、新聞を購入せずにテレビのニュースやインターネットにあげられているニュースで済ませる人が増えている。確かに大きなニュースや出来事はすばやくキャッチできるし、手間もかからないので便利といえる。しかし、新聞にはテレビやインターネットでは分かりにくい、ニュースの中にある「人の姿」が描かれている。私がそう感じるようになったのは、少し前のニュースになるが 2012 年 12 月 2 日、中央道の笹子トンネル崩落事故の新聞記事を読んでからだ。

私はトップニュースで知っていたものの、深くは考えるに至らなかった。9 名亡くなり、重軽傷者が 2 名。その程度の抑えだった。しかし、新聞を手にとって同じ記事をよく読んでみると、トンネルの中にいた人のその時の恐怖、怒り、九死に一生を得たという事実…それらが切実と伝わり、被害にあわれた方のことを考えるととても悲しい気分になり、安全を祈らずにはいられなくなった。

社会の出来事には必ず人が介在している。新聞は出来事の陰に隠れている「人の姿」に焦点を当てて、「人」によって書かれ、「人」によって「人」の手に配達される。いかに情報化社会が進み、ICT が発達しても人を介して伝わる新聞は温かみがあり、出来事を深く理解することができる点において情報メディアとして勝るものはないと考える。この新聞を授業に取り入れる NIE について今回報告する。

## 2、NIE の能力育成のために

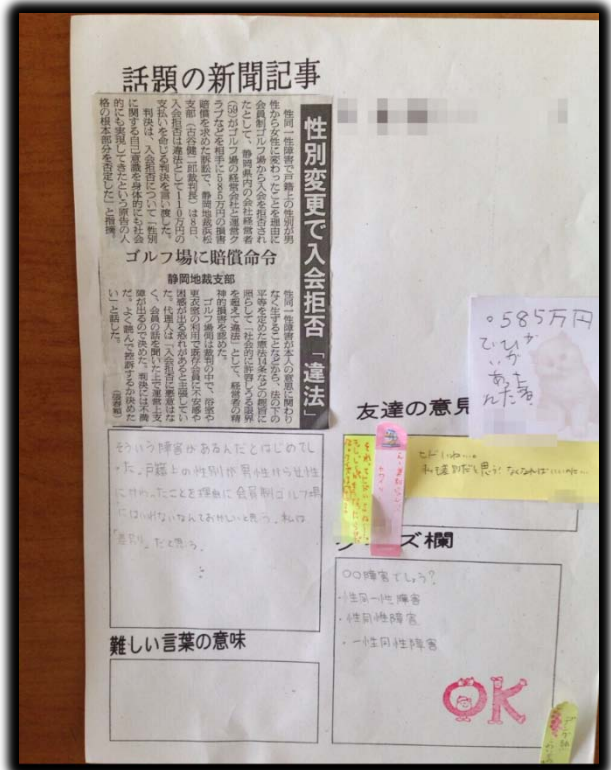
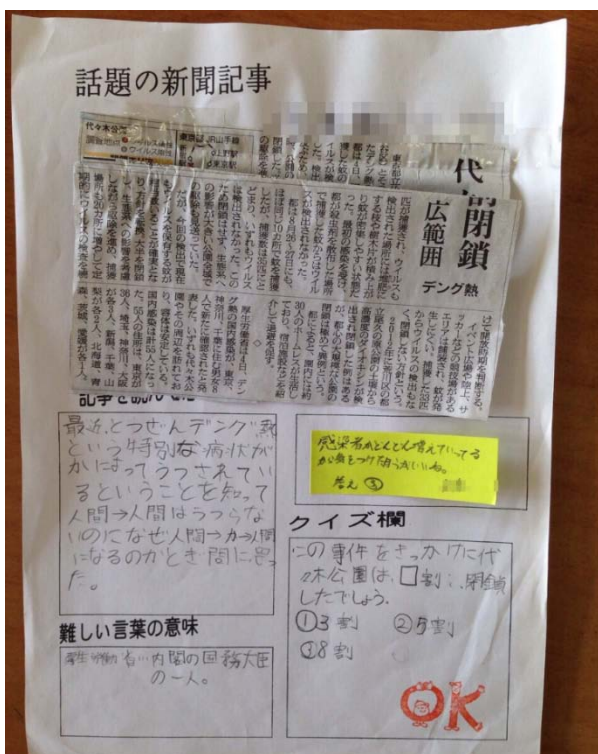
NIE で育成される能力は大きく分けて①新聞を活用する能力と②新聞を作成する能力である。何事も一朝一夕にできるはずがなく、特別な先生が特別なことをしたら力が付くわけではない。だからこそ、学習意欲を高め合える集団の中で、日々の実践を積み上げることこそ、学力向上への道であると私は考える。以下に 7 点に分けて実践を報告する。

### 3、新聞活用能力育成のために

#### ①話題の新聞記事～新聞スクラップ～

私は週に一回新聞ワークシートの課題を出している。内容は自分が興味をもった記事を選び、要旨をまとめ、記事に対する自分の意見を書くという作業が基本である。5年生の国語科の指導事項でもある、要旨の扱いについては慣れないうちはまとめるのが難しいこともあったが、継続することで力がついた。しかし、誰が見てもわかる文章にはなかなかならなかった。そこで、次の段階として他者を意識させようと考え、記事から要旨を掴み、クイズを作成したり、スピーチに活用したりした。また、同記事における人による解釈の違いを意識させるため、ワークシートを見合い、付箋を書き合う活動にもつなげた。結果、以前よりも様々な分野のニュースに興味をもち、意欲的に課題に取り組む児童が増えてきた。

(児童の実践例)



#### ②新聞ワークシートの授業での活用

某新聞社が学校対象で毎週発行しているワークシートを授業で取り入れている。私が主に取り扱うのは道徳の授業である。例として平成26年7月28日の『盲導犬がフォークで刺された』というニュースについて触れる。

価値項目は生命尊重だが、新聞の記事を読み進めていくと罪状は『器物破損罪』である事に気づく。そこでこれについても取り上げ、動物の命に関わるものをもものとして扱う違

和感についても言及する。ともすると法教育分野に入ってしまうので話し合った後、あくまで命を大切にすることに焦点化していった。

このように新聞資料を読み深め、話し合い、葛藤を生み出すことにより、価値項目について深めることができた。

### ③新聞ノートを使った、未来を考える社会科授業

5年生社会科の『日本の工業』単元のふかめる過程で新聞を活用した授業を行った。児童が毎週作成しているスクラップ記事から工業に関するものをまとめ、新聞ノートを完成させた。この新聞ノートの中には自動運転の車や、アメリカでの日本車の評判のよさ、曲がる耐熱ガラス、下町ボブスレー、宇宙旅行への取り組みなど様々な日本の工業製品の技術力の高さを取り扱った記事を載せた。記事を読み取った上で、日本の工業のこれからを考えていく展開である。未来を予想した後、事前に取材しておいた『外国での日本製品の現状を、海外に住む日本人に聞いたアンケート』を公開し、児童の意見を価値付けた。

単元のつかむ過程において、日本の自動車の生産台数が下がっていることを知り、危機感をもっていた子供たちだが、新聞から現状を知り、外国での日本製品の活躍を知ったことにより

『日本の技術はすごい』

『自分も将来そういう風になりたい』

『日本人でよかった』

そんなふうにも明るく日本の工業を捉えなおし、未来について夢を膨らますことができた。

## 4、新聞活用能力の育成

### ④学級新聞

私がNIEを始めて、1番感銘をうけたのは学級新聞や学習新聞である。それまでの私は学級通信を頻繁に発行していたが、一方通行な感が否めなかった。しかし学級新聞は児童と教師と一緒に作る文化である。毎週発行するので多忙なこともあるが、継続することにより新聞作成の力が身につく。そして何より児童同士、児童と教師間の関係づくりにつながる。私がとった方法を以下に述べる。

- (1) 編集会議を開き、編集長を決め、2週間後の発行に合わせた記事を考える。
- (2) 割付をし、担当者が新聞用紙の枠に下書きを書いてくる。
- (3) 専用の新聞用紙に本書きをする。
- (4) 記事を張り合わせ、枠や新聞名などを、記入して仕上げる。
- (5) 印刷、配達する。

この一連の流れを今ではほとんど児童だけでできるようになってきた。これも継続してきた効果である。

(児童の作品例)



⑤ハガキ新聞

リソー教育財団が発行しているハガキサイズの新聞用紙がある。小さいので負担感なくまとめることができる。私は歴史の学習において人物まとめでハガキ新聞を導入している。タイムスリップして歴史人物にインタビューをしているかのように文面を工夫させることにより、臨場感溢れる新聞が出来上がった。これを積み上げていくと、歴史学習の最後には一冊の人物本が出来上がる。児童は達成感と共に学習を振り返っていた。

(児童作品例)



## ⑥学習新聞

学習新聞とは行事でおこなったことをまとめたり、調べ学習を班としてまとめたりするときに有効な学習である。よく活用するのは社会の調べる過程で同時代に起こった文化をまとめる学習である。明治時代、文明開化を調べたときの事例をあげる。

編集会議を開き、4～5の記事を決めるのだが文明開化は実に様々なことが起こっているの、班によって調べたことが違う。例えばざんぎり頭、洋服、食べ物、郵便、人力車、靴、ガス灯、ランプ馬車、洋風建築、太陽暦の採用、『学問のすゝ(す)め』などがかかっていた。それぞれ違うので、よく読むことにより自分で調べたこと、班でまとめたもの、みんなが調べ、まとめたことの全てが知識として定着するのである。

(児童作品原稿)

## ⑦学年末新聞集

学年の終わりに一人当たり新聞用紙2枚で1年を振り返る新聞集を作成する。子供たちは嬉しそうに新聞集を手にとっていた。

## 5、終わりに

新聞に関する実践をまとめてみると実に多様な実践を拡げることが出来たと実感した。NIEって何？から始めた新聞教育だが、その効果は子供たちの作品を見れば明らかである。始めに述べたように人を介して渡される新聞にはやはり温かみがあり、読み手を惹きつけるように思う。言語活動としても、人間関係調整能力の育成としても、NIEはその一翼を担うものだと実感した。多くの児童が新聞に携わり力をつけていけるよう、今後は実践を広げていきたい。

